

京都大学白浜水族館にて行ったアンケート調査：

2007年4月-2008年9月の結果とその分析

原田桂太

The questionnaire survey for visitors at Shirahama aquarium, Kyoto University: the results from April 2007 to September 2008 and analysis of them

Keita Harada

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459)

概要

京都大学白浜水族館にて、2007年4月から2008年9月までに一般の来館者に対して、来館者の年齢層、来館者がどこから来ているか、当水族館の展示がどう評価されているか、などを調査するためにアンケート調査を行った。年齢別で面白かったかどうかを見ると、70歳以上と回答した人を除いて、「おもしろかった」「どちらかといえばおもしろかった」と回答した人の合計が、それぞれの年齢層で9割前後を占めた。10代と20代、および70歳以上では、「つまらなかった」と回答した人の割合がやや高かった。当水族館を知った手段としては、「家族、友だち、知人の話や紹介」と回答した人の割合が白浜周辺からの来館者では高く、遠隔地からの来館者ほど低い傾向が見られた。白浜周辺以外からの来館者では、「たまたま見つけた」と回答した人の割合が高い傾向があった。和歌山県以外の近畿圏からの1回目の来館者数が、全体の半分以上を占めた。また、来館数を「2~4回目」「5回目以上」と回答した人の割合は、白浜周辺からの来館者ほど高く、遠隔地からの来館者ほど低い傾向が見られた。

緒言

博物館や水族館といった施設にとって、来場者に対してアンケート調査を行うことは非常に重要である。なぜならば、これによって来館者の意向を、間接的にはあるが知ることができるからである。アンケートの内容によって、来館者の特定の問題に対する認識度(竹内, 2002)、どの展示の人気が高いか(石渡ら, 2007)、どの年齢層に楽しんでもらえているか(奥野, 1966)、などの情報を得ることが可能である。また、これらの情報を得ることによって、展示方法や入館料、宣伝方法などを検討することも可能になってくる。

京都大学白浜水族館は、大学付属の博物館相当施設であるため、他の水族館とはやや趣の異なる水族館である。当初から、教育施設であるという意識のもと運営されてきたため、展示されている主要生物も他の水族館とはやや異なる。当館で展示されている生物の大部分は南紀白浜周辺で採集された海産生物

であり、特に無脊椎動物の展示を重視している。脊椎動物に関しては魚類以外を展示しておらず、多くの水族館で飼育されているペンギンやイルカなどの哺乳類・鳥類が一切展示されていないことも特殊であるといえる。

しかしながら、海産無脊椎動物の知識が一般によく知られているとは考えにくく、そのような生物の展示を重視している当館は一般にあまり受け入れられていない可能性が十分にあった。にもかかわらず、このような特殊な水族館が一般の来館者にどのような感想を持たれているのかについて、正確に調査されたことはなかった。今回、アンケートによって一般の来館者の評価を調査するとともに、今後の展示を検討していく重要な情報を得ることを目的として、アンケート調査を実施した。

方法

京都大学白浜水族館において、2007年4月から2008年9月までの18ヶ月間、水族館出

口にアンケート用紙と回収箱を設置しておき、来館者にアンケートに回答してもらった。この際、アンケートに回答してもらうよう呼びかけたりするなどは一切せず、来館者の自由意思で記入してもらった。アンケートは、A4 サイズ両面印刷の用紙に、合計 9 問を用意した(表 1、2)。問 1 から問 8 については選択肢から当てはまるものを選ぶ形式にし、問 9 のみ自由に書き込んでもらう形式とした。

アンケートは、回収箱にある程度たまった時に回収し、その際いたずら書きと思われるものや白紙回答であったものをできる限り排除した。

18 ヶ月で 4621 人分の有効な回答が得られた。しかし、設問によって回答していたり回答していなかったりした人がいたため(問 1 には回答しているが問 2 には回答していないなど)、総サンプル数は設問ごとに異なる。

なお、問 6 は 2007 年 6 月途中に増設した質問であるため、6 月以前のサンプル数が他の期間と比べ少なくなっている。

問 9 の意見・感想・要望欄に回答していた人は 2389 人(51%)であり、これについては、得られた回答を、展示希望生物を記入していたもの、水族館に対する要望を記入していたもの、感想を記入していたもの、の 3 つに分類して集計した。

展示希望生物について回答していた人は 366 人(8%)であったが、一人で複数回答している場合もあったため、回答の総計は 450 となった。なお、「大きな魚」などの漠然とした生物、現在は飼育している生物、希望した人の総計が 10 人未満の生物、当館の設備では飼育不可能な生物、が記入された回答は「その他」として集計した。

水族館に対する要望に関しては 372 人(8%)が回答していた。この中で、予算的に実現不可能な要望、現在は改善されている要望は「その他」とした。

感想に関しては、1623 人が記入していたが、多くは「面白かった」「つまらなかった」など漠然とした回答であったため、集計していない。

グラフ中では、以下の通り表記を省略している場合がある。

問 1 の「9 歳まで」「70 歳以上」という回答は、それぞれ「～9 歳」「70 歳～」と表記している。

問 3 の「白浜町・上富田町・田辺市・すさみ町・みなべ町」「④以外の和歌山県内」「大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県」「①・②・③以外の都道県」という回答は、それぞれ「白浜周辺」「和歌山県内」「近畿圏内」「全国」としている。

問 5 の「この水族館のホームページ」「新聞、雑誌、ガイドブック、テレビ、ラジオ、インターネット」「家族、友だち、知人の話や紹介」という回答は、それぞれ「ホームページ」「その他メディア」「人づて」としている。

結果

1：各設問の回答とその季節的な変化

問 1

年齢層は通年で大きな変化が見られず、「9 歳まで」「10 代」と回答した人の合計が半分程度を占めていた(図 1)。また、年齢が上がるほど割合が減っていく傾向が見られた。ただし、家族で来館している場合、親が子供に回答させることが多い可能性があるため、この割合が来館者の年齢層を反映していない可能性は十分にある。

問 2

男女比に関しては、女性のほうがやや多かったが、それ以外に大きな変化は認められなかった。

問 3

来館者がどこから来ているかについては、全期間で「大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県」と回答した人が全体の 60%前後を占めていた(図 2)。また、2007 年 7～9 月、2008 年 1～3 月、7～9 月では、「大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県」と回答した人の割合がやや高くなっていった。これは、この期間に夏休みと冬休みが含まれ、この地域からの観光客の数が増えたためと考えられる。

問 4

この水族館を利用したのは何回目かという質問では、「1 回目」と回答した人の割合が、全期間で 70%前後を占めていた(図 3)。このことから、リピーターの割合がやや少ない傾向がいええるが、2 回目以降来館した人は、一度アンケートに回答しているため、2 回目以降アンケートに回答していないという可能性がある。

問 5

この水族館を知った方法については、「家族、友だち、知人の話や紹介」および「たまたま見つけた」という回答が全期間で目立った(図 4)。また、「その他」と回答した人の多くは、「タクシーの運転手に聞いた」「カーナビゲーションで見つけた」と記入していたため、「その他」と回答した人の多くも「たまたま見つけた」に含まれると考えられる。

なお、選択肢②は「この水族館のホームページ」であるが、選択肢③に「インターネット

ト」という回答も含まれている。これは当館のホームページを見て来館した人の割合を調べるために別に設問したのだが、そのことが説明されていなかったので、回答者を混乱させてしまった可能性がある。

問 6

水族館の展示内容については、「おもしろかった」「どちらかといえばおもしろかった」と回答した人の合計が全期間で90%以上を占めていた(図5)。このことから、多くの来館者に満足してもらえていることがわかる。

問 7

この水族館が京都大学の付属施設で、大学の教育・研究に利用されていることを知っていたかどうかについては、「知っていた」と回答した人の割合は全期間で45%前後であった(図6)。

問 8

入館料に関しては、「安い」「どちらかといえば安い」「ふつう」と回答した人の合計が全期間で80%以上を占めていた(図7)。このため、入館料は現行で問題ないといえる。また、7~9月にかけて「安い」と回答した人の割合がやや高くなっていったが、これは夏休み期間に小中学生以下を無料としていることが関係している可能性がある。

2: 総計した結果

この水族館の展示内容が面白かったかどうかについて、年齢別に回答をまとめると、「70歳以上」と回答した人を除いて、それぞれの年齢層で「おもしろかった」および「どちらかといえばおもしろかった」と回答した人の合計が80%以上となった(図8)。特に、「9歳まで」と回答した人では「おもしろかった」という回答のみが80%以上を占めていたことから、小学生以下の小人に満足してもらえていることがわかった。「つまらなかった」と回答した人の割合は、10代と20代、および70歳以上でやや多くなる傾向が見られた。

来館者を、どこから来たか、および何回目の来館か、で分けた場合、「大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県」かつ「1回目」と回答した人の割合が、全体の半分以上を占めており(図9)、和歌山県以外の近畿圏から来館している人の割合が非常に大きいことが明らかになった。これを地区別でみていくと、「白浜町・上富田町・田辺市・すさみ町・みなべ町」と回答した人では「2~4回目」および「5回目以上」と回答した人の割合がやや高かったが、それ以外の地域では「1回目」と回答した人の割合が高くなる傾向があった(図10)。また、白浜周辺から遠くなるほど「2~4回目」「5回目以上」と回答した

人の割合が低下していく傾向が見られた。来館回数別では、「1回目」と回答した人の71%が「大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県」から来館しており、初めて来館した人の多くは和歌山県以外の近畿圏から来ていたことがわかった(図11)。しかし、「5回目以上」と回答した人のうち「大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県」からの来館者が28%も占めており、近畿圏からの観光客で、何度も来館している人がそれなりに多いこともわかった。この水族館を知った方法について地区別にまとめると、「白浜町・上富田町・田辺市・すさみ町・みなべ町」と回答した人では、「家族、友だち、知人の話や紹介」および「学校の遠足や授業」と回答した人が非常に多かったことに比べ、遠隔地からの来館者ほど、この2つの回答の割合が減り、「新聞、雑誌、ガイドブック、テレビ、ラジオ、インターネット」と回答した人の割合が高くなる傾向が見られた(図12)。また、「白浜町・上富田町・田辺市・すさみ町・みなべ町」と回答した人以外では、「たまたま見つけた」と回答した人の割合がかなり高かった。このことから、白浜周辺では人づてにこの水族館のことが伝わっているのに対し、白浜周辺以外では知名度が低く、白浜に観光で訪れた人が水族館を偶然発見して来館している場合が多いことが明らかになった。

展示してほしい生物については、クラゲ、ウミガメ、哺乳類・鳥類、マグロ、カクレクマノミと回答した人が多かった(図13)。しかし、イルカやペンギンなど一般の水族館で目玉とされる生物の展示を希望した人は予想より少なく、哺乳類・鳥類すべて合計しても全体の9%であった。ウミガメに関しては、当水族館で以前飼育していたことがあり、そのことを知っている人からの要望が多かったのではないかと考えられる。ジンベエザメに関しては、他の水族館で飼育されていることや、世界最大の魚であることから、やや希望が多くなったと考えられる。

展示してほしい生物の「その他」については、サメに関する回答が多かった(表3)。特に、一般人に食いザメと呼ばれるサメの展示希望者が多かった。しかし、「その他」に含まれる回答のうち、多くは「熱帯魚」「美しい魚」といった漠然としたものであった。

水族館に対する要望では、「照明を明るくしてほしい」「説明をもっと詳しくしてほしい」「駐車場を広くしてほしい」などの回答が多かった。また、「タッチングプールを作してほしい」「解説をわかりやすくしてほしい」などの回答も目立った。

水族館に対する要望の中で「その他」として集計した回答では、「水族館をもっと広く

してほしい」「展示種数を多くしてほしい」などの回答が目立った(表4)。

考察

全期間で「大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県」から来たと回答した人が多く、和歌山県以外の近畿圏から来館している人が予想よりも非常に多いということが確認できた(図2)。2007年11月に阪和自動車道が南紀田辺ICまで開通し、交通の便がより改善されたため、今後も近畿圏からの来館者が増えると考えられる。

しかしながら、この水族館を知った方法に関して、白浜周辺以外では「たまたま見つけた」と回答した人が多い傾向があり(図12)、全期間を通じて「たまたま見つけた」と回答した人が多かったため(図4)、今後はどのようにして当館の存在を宣伝していくかが、来館者数を増加させるうえで非常に重要であると考えられる。今回の調査で、新聞・テレビなどのメディアを通じて当館のことを知ったという人もかなり多いことが明らかになったため、この方面での宣伝をより活発にしていくことが必要である。また、白浜への観光客がこの水族館の存在に気づくことができるように、看板を一般道から見えるところに設置することも必要であろう。これによって、あらかじめ当館の存在を知ってから観光に来ている人が来館しやすくなる効果もあると考えられる。事実、「看板をもっと見やすくしてほしい」という要望も5件あり(表4)、看板は比較的容易に設置できることから早急に検討するべきである。

白浜周辺では、家族や知人の話で知った、遠足や授業で知った、と回答した人が多かったが、これは当館が白浜周辺の幼稚園や小学校の遠足などの行事で頻繁に利用されていることと整合している。また、白浜周辺からの来館者では、5回以上来館していると回答した人の割合もかなり高かったため(図10)、地元の人にある程度評価してもらえていることも明らかになった。

当館が無脊椎動物の展示を重要視しているやや特殊な水族館であるにもかかわらず、展示に対する評価は予想以上に高いことが分かった(図5、8)。もちろん、展示に満足しなかった人があまりアンケートに回答していない可能性もあるが、それを考慮に入れてもかなりの好評であることがうかがえる。年齢別の評価では、9歳までの小人に高評価であることがわかった。これは、大人が「気持ち悪い」と感じる生き物でも、子供は純粋に「奇妙な」「おもしろい」生き物と見ることができるということではないだろうか。そのた

め、無脊椎動物という普段あまり見ることのない生物が多数展示されている当館を十分に堪能できたと思われる。

10代と20代で「つまらなかった」と回答する割合がやや増える傾向が見られたが、この年齢層にとって水族館とは「イルカやペンギンが展示されている施設」というイメージが大きくなっているからではないだろうか。

また、水族館に対して「デートスポットを提供してほしい」という意識が強い可能性も十分に考えられる。また、70歳以上で「つまらなかった」と回答した人の割合が21%に達したが、30代~60代の回答から考えると不自然な値となっている。これに関しては、子供のいたずらの影響が強くなってしまった可能性が高い。子どもがいたずらでアンケートに回答する場合、もっとも極端な回答を選択する傾向があり(たとえば、年齢「70歳以上」、「近畿以外の都道府県」でアメリカから来た、来館回数「5回目以上」、展示は「つまらなかった」、入館料は「高い」、とするなど)、もともと70歳以上と回答したサンプル数がやや少ないこともあって、いたずらの影響が強くなってしまったのであろう。

展示を希望する生物で「クラゲ」という回答が目立ったことについて(図13)、現在当館ではサカサクラゲを常時展示しているが、おそらく水中を漂うタイプのクラゲをイメージして回答した人が多かったと考えられる。クラゲは、以前と比較して飼育技術が向上し、様々な水族館で飼育され、いわゆる「癒し系生物」として人気があるため、希望が多くなったのであろう。今後、ミズクラゲなどの展示を検討し、要望にこたえていく予定である。「マグロ」を展示してほしいという回答も多かったが、当館の近隣にマグロ養殖の発祥となった近畿大学の施設があるため、要望が多かったのではないかと考えられる。しかしながら、マグロのような大型の回遊魚は、当館の設備では飼育は難しく、実現は不可能であると思われる。「カクレクマノミ」と回答した人も多かったが、カクレクマノミはかつて映画の主役に選ばれ一躍有名になったため、要望が多かったと考えられる。しかしながら、カクレクマノミは南方系の種であり、和歌山県では現在確認されていないため、白浜周辺の生物を展示するという当館のコンセプトから逸脱することから、展示することはできない。

その他の展示希望生物では、サメに関する要望が特に多かった(表3)。現在当館では、エイラクブカやナヌカザメなどを常時展示しているが、より大型の種を展示してほしいという要望が強いことがわかった。しかしながら、大型のサメ類を飼育するにはかなり大型

の水槽が必要となり、当館の設備では対応できないことから、実現は困難と考えられる。

展示希望があった生物の中で、無脊椎動物を合計すると、全体の 24% (n=109) を占めていた。哺乳類・鳥類の合計が 9% であったことを考えると、これは決して少ない数字ではない。このことから、無脊椎動物を中心に展示するという当館の意図がある程度来館者に伝わっていると考えることもできる。

水族館に対する要望では、「照明を明るくしてほしい」という意見がかなり多かった(図 14)。しかし、通路側の照明を強くしすぎると、①展示物が見えにくくなる、②ガラス面に藻類が発生しやすくなる、などの理由から、照明を強くすることは困難である。「説明をもっと詳しくしてほしい」という意見が多いことに関しては、魚名板や解説板の利用率が決して低いものではなかったとする奥野(1971)の結果と同じく、説明板などを利用する来館者が予想よりも多いことを示している。これに関しては、水槽解説ファイルを増設し、より分かりやすい内容を、多数掲示していくことで対応していく予定である。「駐車場を広くしてほしい」という意見も多く、特に夏休みなど来館者が増加する時期は駐車場が頻繁に満車になるため、駐車場の拡張は早急に議論されるべきであろう。現在、大型バスが駐車できるスペースがないため、集客の点からも駐車場の拡張は非常に重要である。「タッチングプールを設置してほしい」という意見も多かったが、プールに入れる生物の確保と、監視に人員が必要になることから、実現は難しい。「クイズラリーを充実させてほしい」という要望に関しては、大きくわけて、「景品がほしい」「問題数を増やしてほしい」「問題を易しくしてほしい」の3つの意見があった。景品を用意することは難しいが、問題を変更することや問題数を増やすことは可能なので、議論の余地がある。

要望の中でその他とした回答では、「展示種数を増やしてほしい」と「施設を広くしてほしい」という意見が目立った(表 4)。当館では常時数百種の生物を展示しているにもかかわらず、意外にも種数増加を希望する人が多かった。これについては、外見がよく似ている種同士を区別することができず、そのため種数が少ないと感じる人が多い可能性が考えられる。しかし、来館者が「哺乳類」「鳥類」「爬虫類」「両生類」「魚類」「無脊椎動物」という分類で生物をみているために、このような結果になった可能性もある。この分類に基づけば、多くの水族館でこのすべて

を展示していることになるが、当館では「魚類」と「無脊椎動物」の2種類しか展示していないことになり、このことから種数が少ないという感想を持つ人がいたのではないだろうか。当館は無脊椎動物が非常に多様であることを来館者に伝えることも目的の一つとしているが、海洋における門レベルでの多様性は、一般には未だほとんど知られていないために、このような意見がでてきたともいえる。無脊椎動物の展示希望が意外にも多かった一方でこのような結果がでたことから、今後も海洋生物の多様性を伝える努力を継続することが重要であると考えられる。

当館は京都大学の付属施設であり、娯楽施設ではなく教育・研究施設であることを意識した水族館である。しかしながら、一般の来館者にとって、水族館とは家族観覧を目的とする施設である、という意識が強く(石渡ら, 2007)、学習の場であるという認識はほとんどない。事実、当館が大学の付属施設で教育・研究に利用されていることを知っていた人は全体の半分にも満たなかった(図 6)。このため、多くの水族館では脊椎動物の展示を重視し、イルカやペンギンなどが目玉とされる傾向が強い。しかしながら、当館では脊椎動物の展示は魚類に限っており、無脊椎動物の展示を重視している。その展示において、ある程度の高評価を得たことで、当館の方向性が決して間違いではなかったことを明らかにできたのではないだろうか。海洋に生息する脊椎動物はわずかであり、むしろ非常に多様な無脊椎動物が生息している。そのことを身近に学ぶことのできる施設として、今後も宣伝・展示ともに努力していくことが必要である。

引用文献

- 石渡 友輔・安田 幸一・大澤 久美. 2007. 水族館建築における展示手法に関する形態研究(8). 水族館における子どもの好む場所に関する研究. 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2007: 825-826.
- 奥野 良之助. 特集展示についてのアンケート(3). 「珍しい習性の魚」写真展(1966年夏および秋). (未発表)
- 奥野 良之助. 1971. 魚名板解説板の利用率調査. 日本動物園水族館雑誌 XIII, 2: 19-22.
- 竹内 健. 2002. ブラックバス問題に関する来園者へのアンケート調査. 日本動物園水族館雑誌, 43(2): 56-61.

表1. アンケート用紙(表).

京都大学白浜水族館についてのアンケート

筆名の隠れをお書き下さい。
[]月[]日[]曜

今日は京都大学白浜水族館をご利用いただきありがとうございました。お楽しみいただけたでしょうか。みなさまのご感想・ご意見などをお聞かせください。この水族館では、わかりやすく、ためになる展示ができるよう日々努力をしております。いただいた貴重なご意見は、すこしでもよい展示をするための参考にさせていただきます。

このページの問いには、右端の[]の中に番号を一つだけお書きください。

1. お歳をお知らせください。

- ①9歳まで、 ②10代、 ③20代、 ④30代、 ⑤40代、 ⑥50代、 ⑦60代、 ⑧70歳以上.....[]

2. 性別をお知らせください。 ① 男、 ② 女[]

3. どちらからお見えになりましたか。

- ① 白浜町・上富田町・田辺市・すさみ町・みなべ町、 ② ①以外の和歌山県内、 ③ 大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県、 ④ ①・②・③以外の都道府県.....[]

4. この水族館は何回目のご利用ですか。

- ① 1回目、 ② 2~4回目、 ③ 5回目以上.....[]

5. この水族館をどのようにしてお知りになりましたか。

- ① リーフレット・ポスター、 ② この水族館のホームページ、 ③ 新聞、雑誌、ガイドブック、テレビ、ラジオ、インターネット、 ④ 家族、友だち、知人の話や紹介、 ⑤ 学校の遠足や授業、 ⑥ たまたま見つけた、 ⑦ その他.....[]

6. この水族館の展示内容はいかがでしたか。

- ①おもしろかった、 ②どちらかといえばおもしろかった、 ③どちらかといえばつまらなかった、 ④つまらなかった.....[]

7. この水族館が京都大学の附属施設で、大学の教育・研究に利用されていることをご存知でしたか。

- ① 知っていた、 ② 知らなかった.....[]

8. 入館料についてどう思われますか。

- ① 安い、 ② どちらかといえば安い、 ③ ふつう、 ④ どちらかといえば高い、 ⑤ 高い.....[]

(裏ページの質問にもお答えください)

表 2. アンケート用紙 (裏).

9. ^{いけん}ご意見、^{かんそう}ご感想、^{ようぼう}ご要望など、^{じゆう}自由にお書きください。(^{あたら}新しく^{はっけん}発見した^{きょうみ}こと、興味
^{かんしん}や^{かんしん}関心を^{せいぶつ}もった^{こと}生物・^{てんじ}事柄、^{せいぶつ}展示して^{すいそう}ほしい^{しょうめい}生物、^{ちゅうしやじょう}水槽や^{まつり}照明・^{まつり}駐^ま車^{てん}場などの^ま設備で
^まお^{てん}気^{てん}づ^{てん}きの^{てん}点^{てん}など)

^{きょうりやく}ご協力^{きんじゆうず}ありがとうございました。^{きんじゆうず}記入^{きんじゆうず}済^{きんじゆうず}みの^{きんじゆうず}アンケート^{きんじゆうず}用^{きんじゆうず}紙^{きんじゆうず}は^{きんじゆうず}回^{きんじゆうず}収^{きんじゆうず}箱^{きんじゆうず}にお^{きんじゆうず}入^{きんじゆうず}れ^{きんじゆうず}く^{きんじゆうず}だ^{きんじゆうず}さい^{きんじゆうず}。

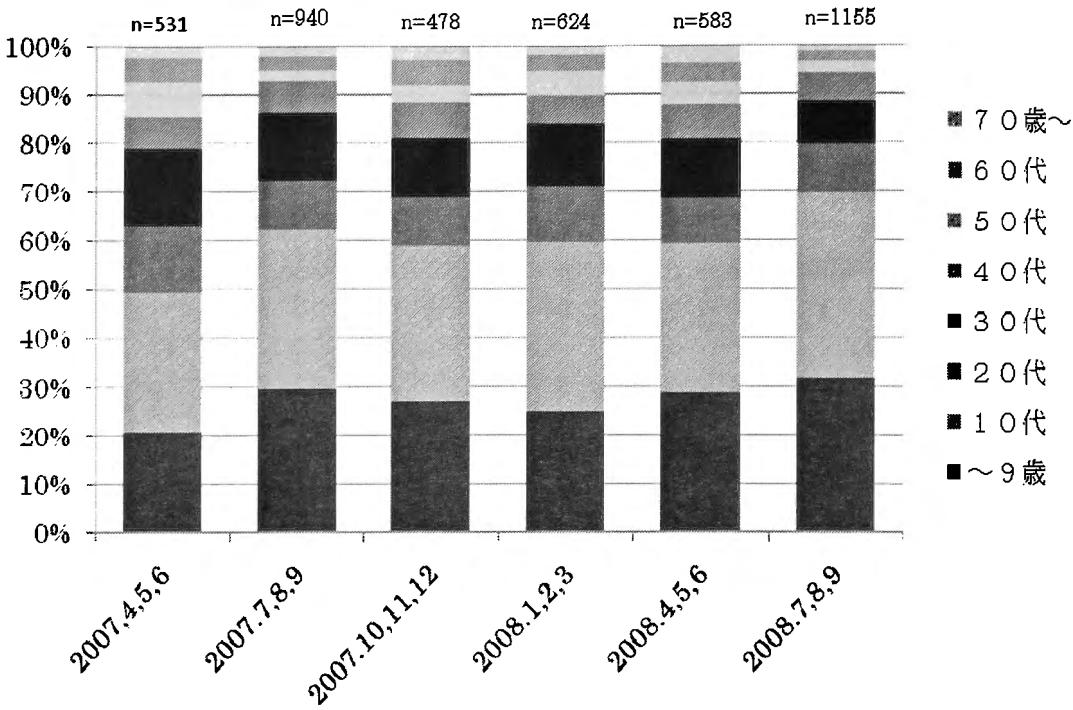


図1. 季節ごとの年齢構成.

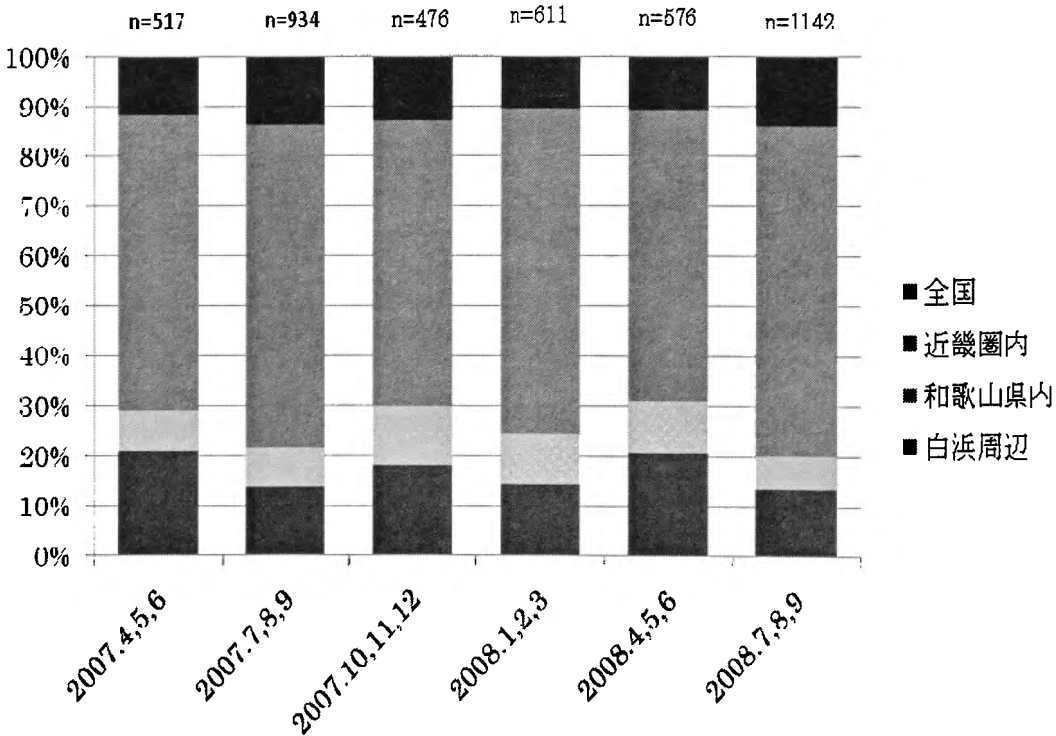


図2. 来館者がどこから来たかを季節別にまとめたもの.

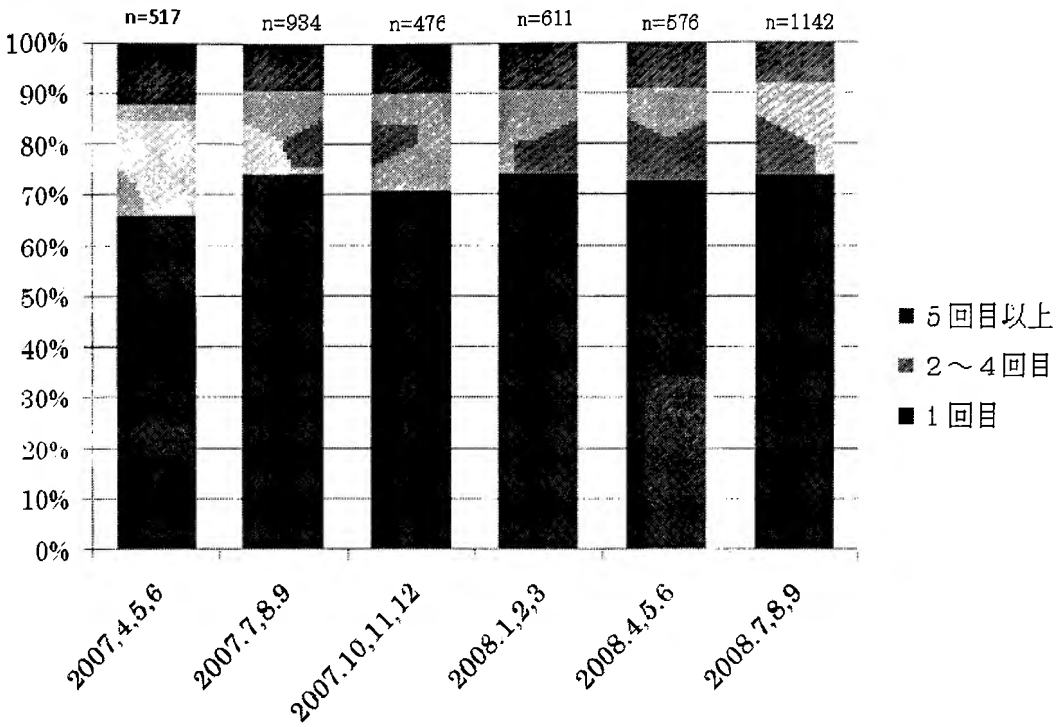


図3. この水族館を利用したのは何回目かを季節別にまとめたもの。

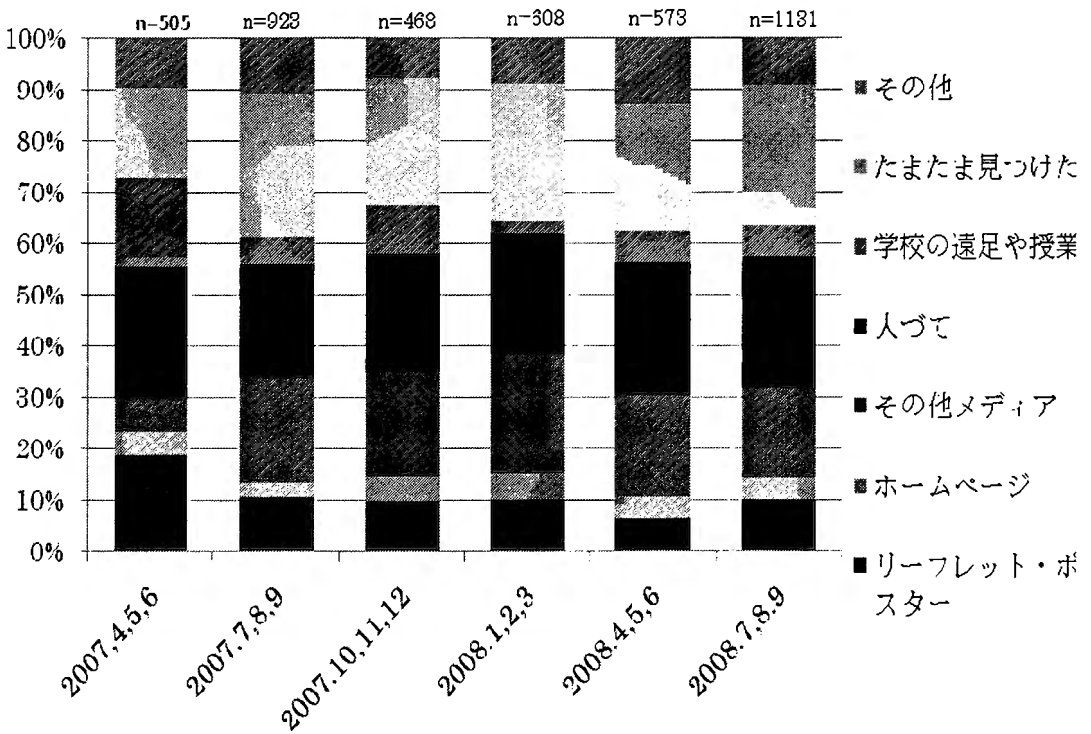


図4. 当水族館をどの方法で知ったかを季節別にまとめたもの。

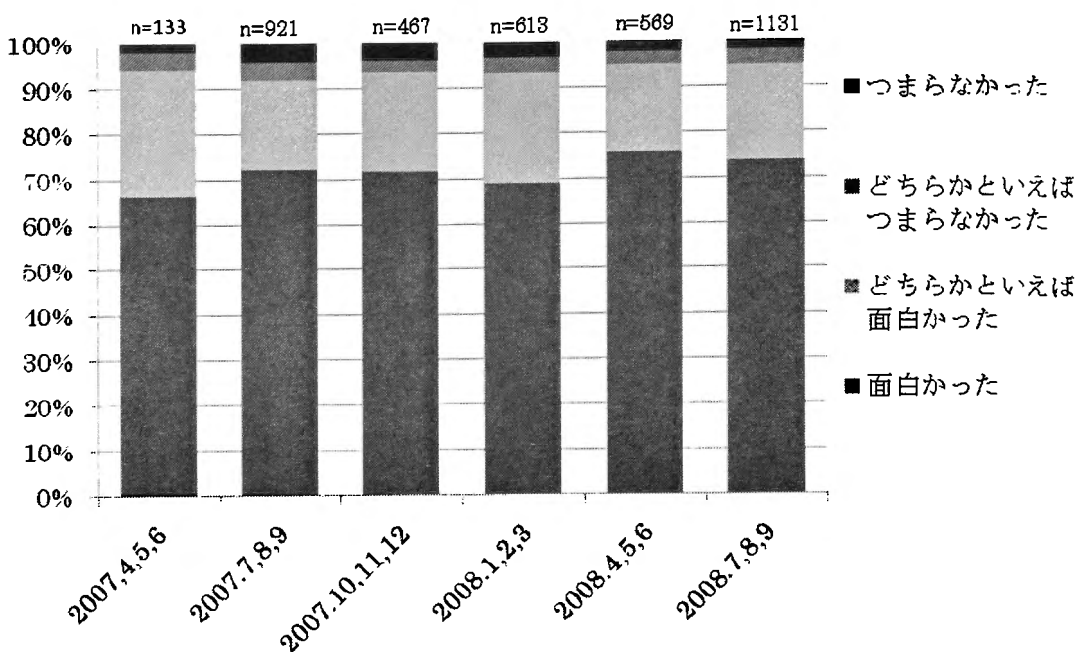


図 5. この水族館の展示内容についての回答を季節別にまとめたもの。

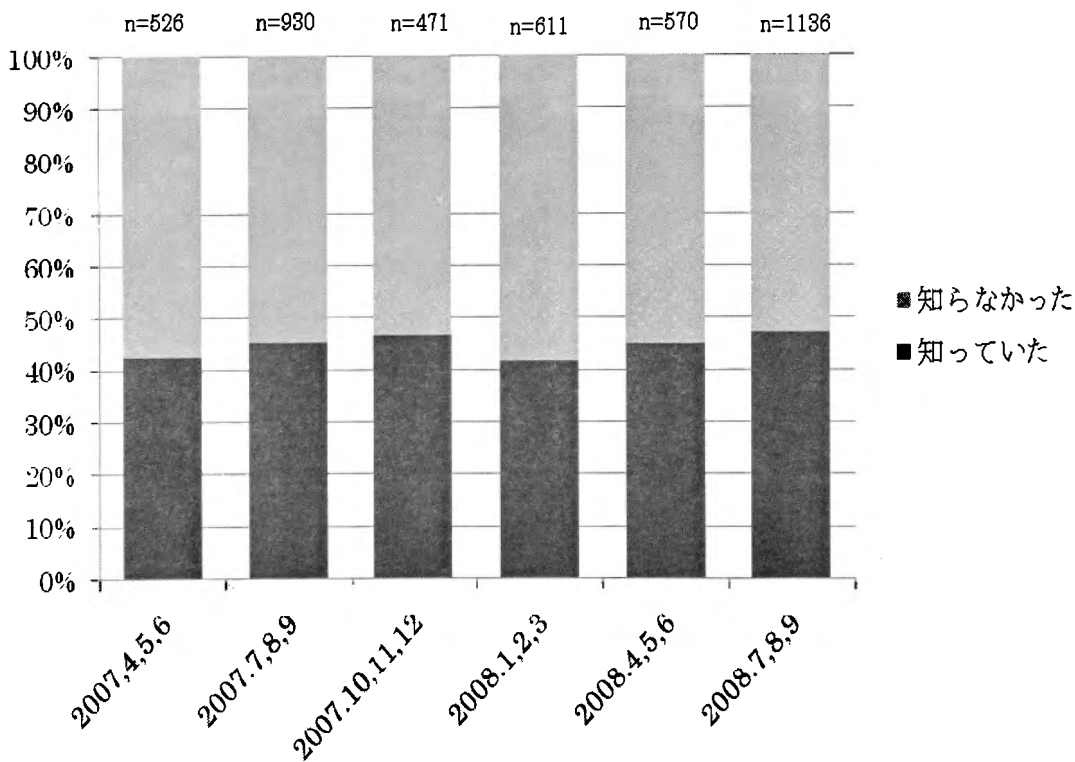


図 6. この水族館が京都大学の附属施設で、大学の教育・研究に利用されていることを知っていたかどうかを季節別にまとめたもの。

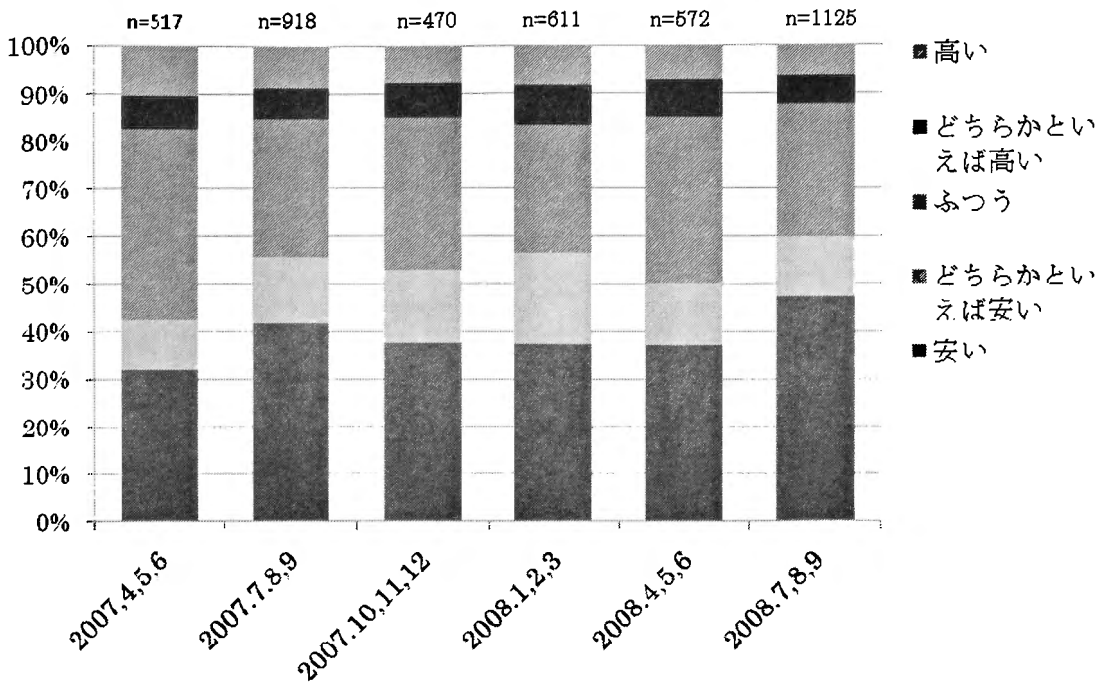


図7. 入館料についてどう思ったかを季節別にまとめたもの。

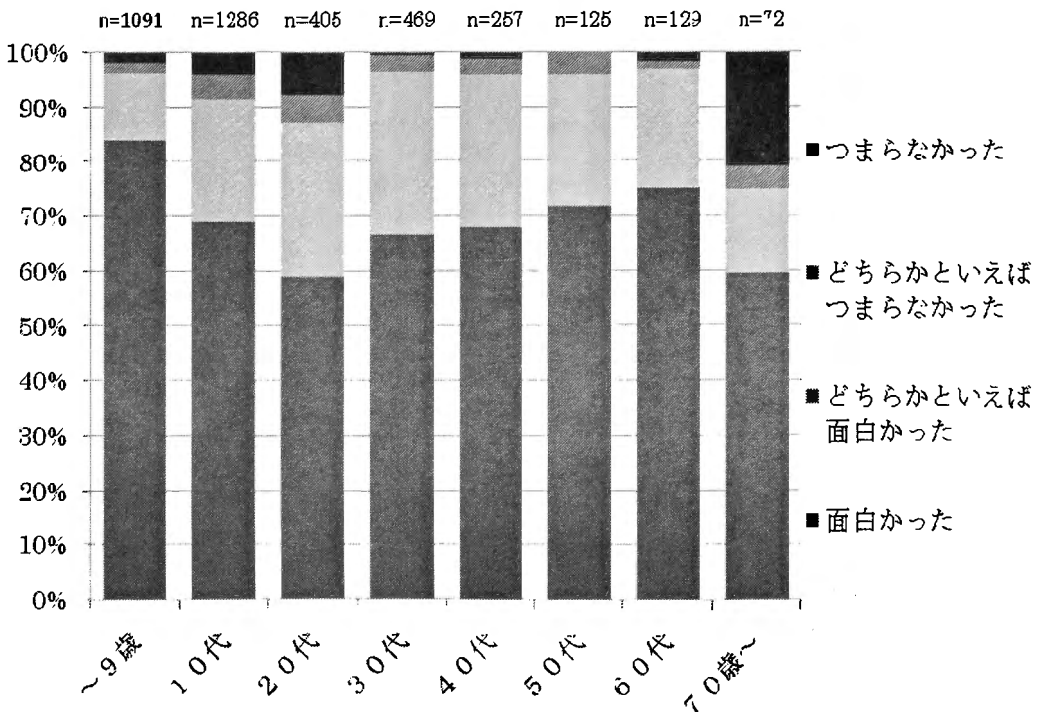


図8. 水族館の展示内容について、年齢別にまとめたもの。

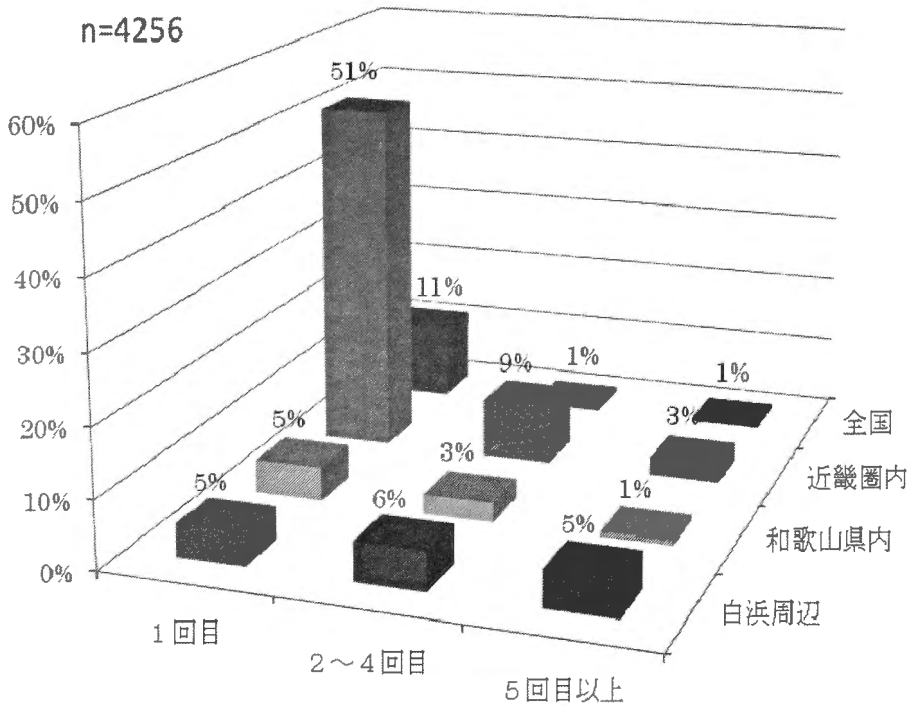


図 9. 全回答を、どこから来たか、および何回目の来館か、で集計したもの。

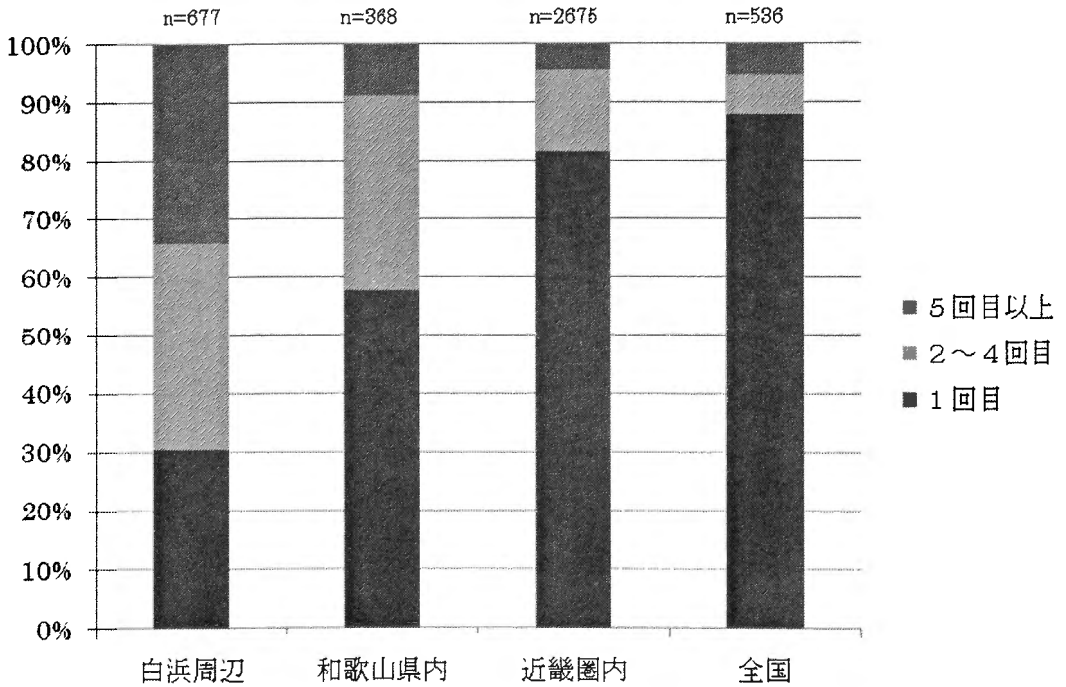


図 10. この水族館を利用したのは何回目かに対する回答を地区別でまとめたもの。

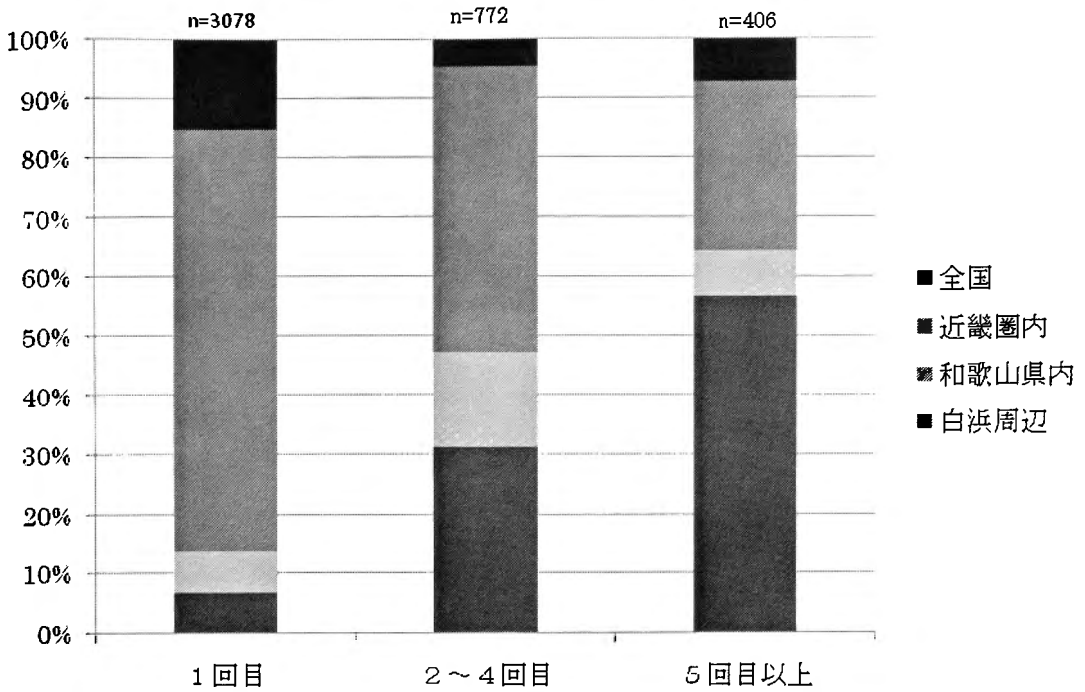


図 11. どこから来たか、に対する回答を来館回数別にまとめたもの。

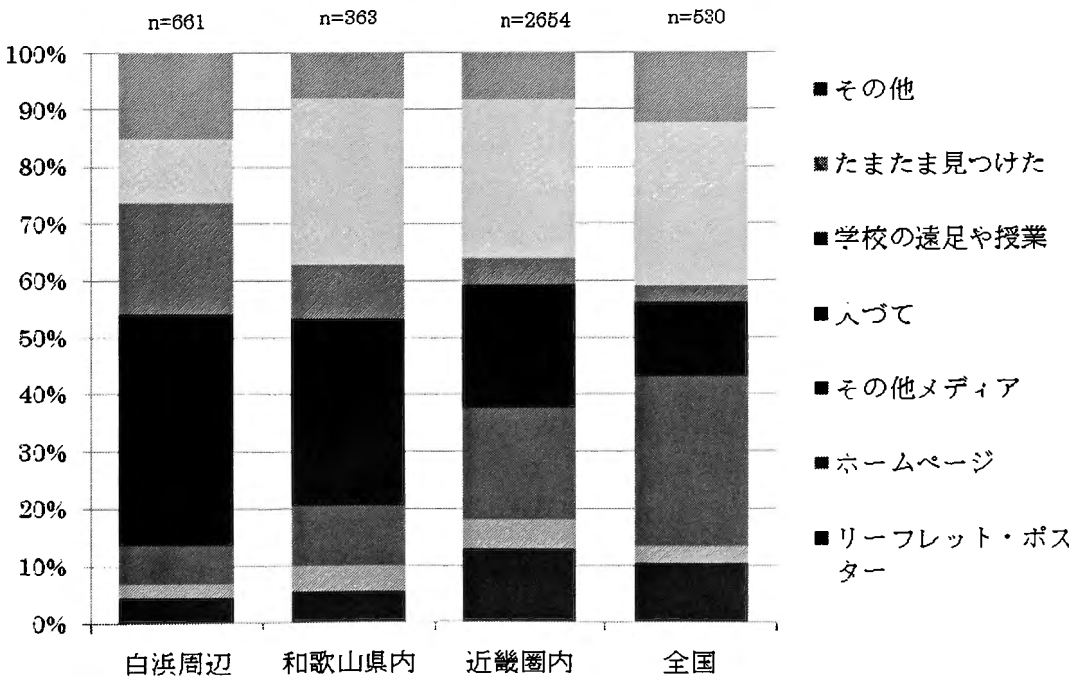


図 12. この水族館をどのような方法で知ったか、に対する回答を地区別でまとめたもの。

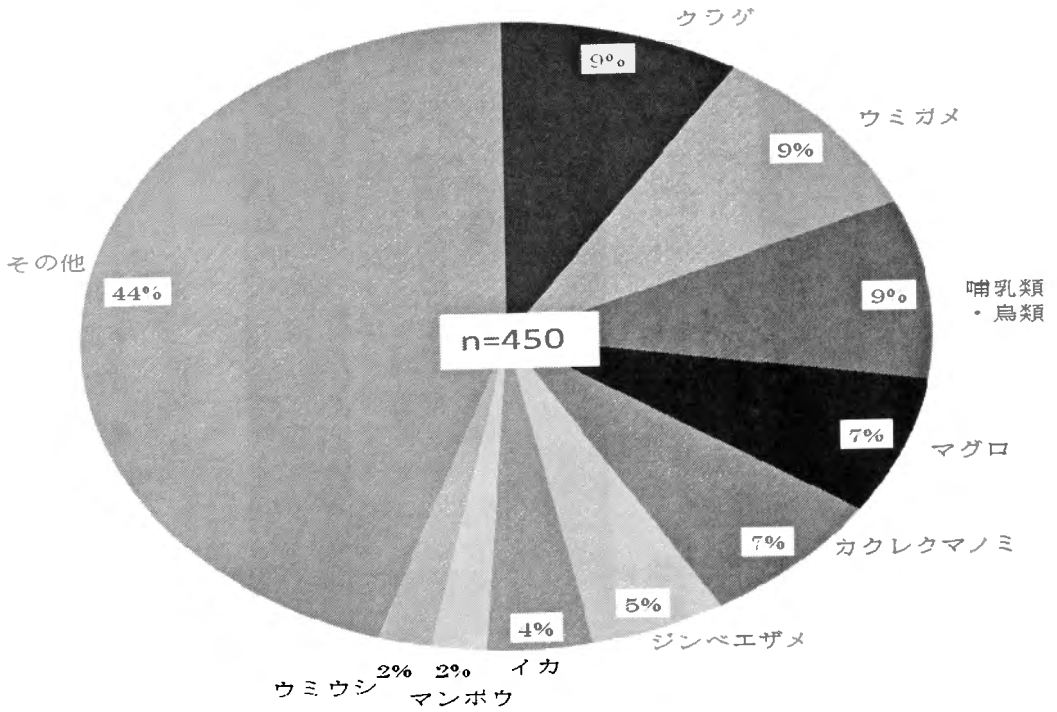


図 13. 展示希望動物.

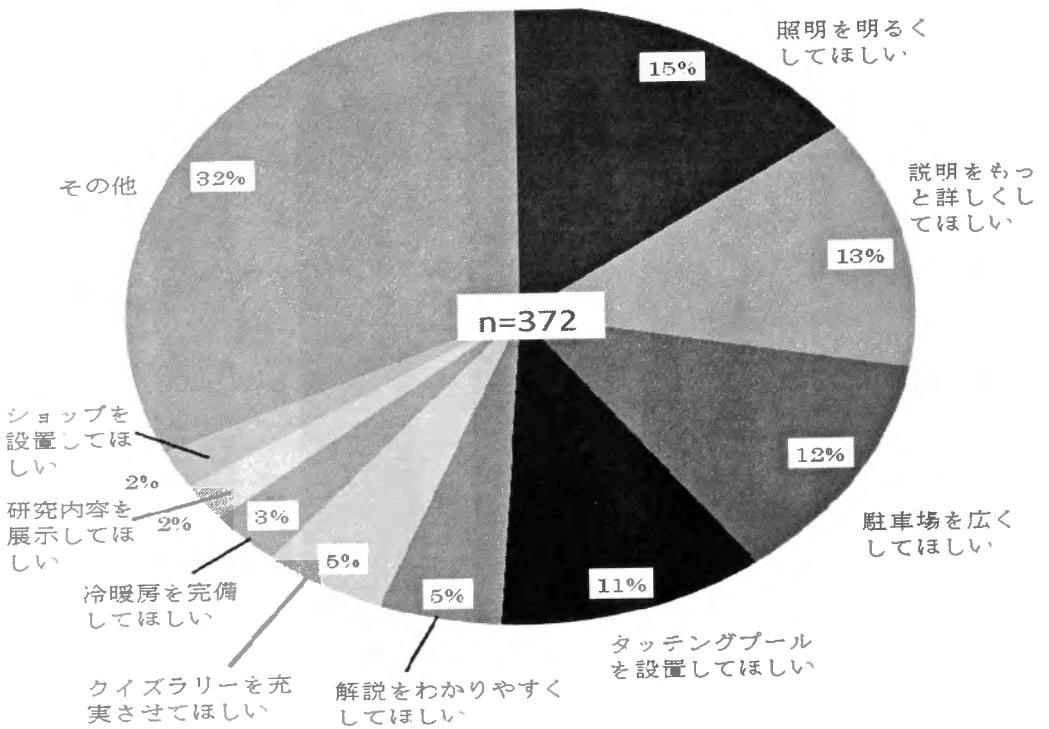


図 14. 水族館に対する要望.

表3. 展示希望動物の「その他」回答（おおまかな分類群別）.

サメ	15	オヒョウ	1	シャコ	1
ホオジロザメ	3	エビスシイラ	1	カブトガニ	1
大きいサメ	9	カジキ	1	ズワイガニ	1
珍しいサメ	1	コバンザメ	1	貝類	6
シュモクザメ	5	イシダイ	3	タコ	4
ネコザメ	3	キス	1	ミズダコ	1
メガマウス	2	リーフィーシードラゴン	1	クリオネ	9
シロワニ	1	タツノオトシゴ	4	アメフラシ	2
イタチザメ	1	ピラニア	3	ヒトデ	1
ヨシキリザメ	1	金魚	1	スカシカシパン	1
アオザメ	1	ベタ	1	イソギンチャク	1
ポートジャクソンネコザメ	1	電気ナマズ	2	藻類	3
エイ	1	ピラルク	2	海藻	1
メガネモチノウオ	2	エンゼルフィッシュ	1	星砂	1
フグ	2	マス	2	淡水の生物	5
ハコフグの幼魚	1	ウミヘビ	3	深海の生物	3
ナンヨウハギ	1	ワニ	1	深海魚	12
チョウザメ	2	オオサンショウウオ	1	熱帯魚	11
タテジマキンチャクダイ	1	ウーパールーパー	2	美しい魚（カラフルな魚、かわいい魚含む）	11
ソメワケヤッコ	1	ホヤ	1	大きな魚	2
コブダイ	2	ダイオウグソクムシ	1	変わった魚（珍しい魚含む）	6
アオブダイ	1	オオグソクムシ	1	小さい生き物	1
ツノダシ	1	エビ	1	微生物	1
シーラカンス	3	スベスベケブカガニ	1	外来魚	1
リュウグウノツカイ	3	スベスベマンジュウガニ	1	珍しい生き物	4
チンアナゴ	1	ヤマトカラッパ	1	不細工な魚	1
クマノミ	1	シオマネキ	1	新種の魚	1
ソラスズメダイ	1	アサヒガニ	1		

表 4. 水族館に対する要望の中で「その他」とした回答の内訳（希望数別）.

入館料を安くして	13	水槽の奥を見やすくして	1
展示している種数を増やして	12	ベビーベッドを設けて	1
もっと広くして	11	スタンプラリーをつくって	1
機器の管理をしっかりして	8	置いてある本を買えるようにして	1
看板を見やすくして	5	トイレを洋式にして	1
バックヤードツアーの回数を増やして	5	ナヌカザメの成長過程を展示して	1
館内をきれいにして	5	水漏れを直して	1
トイレをきれいにして	4	説明版への照明は水槽へ反射するのではなくして	1
給餌のときにアナウンスして	4	食べられるか書いて	1
展示スペースを増やして	3	バックヤードツアーをGWにもおこなって	1
椅子を増やして	3	障害者割引をつくって	1
休憩・遊びゾーン	3	SEM像を展示して	1
魚の写真をわかりやすいものにして	3	図書室をつくって	1
餌やり体験がしたい	3	駐車場に日陰をつくって	1
年間パスをつくって	2	露をふくタオルをおいて	1
しんだ魚を引き上げて	2	最後の水槽をもっと華やかにして	1
ループが上下移動できるようにして	2	グッズをおいて	1
イルカショーが見たい	2	京都にもつくって	1
ウツボのパイプを長くして	1	紀伊民報の記事を水槽にも展示して	1
ウツボを見やすくして	1	子供が見づらいので踏み台をおいて	1
リーフレットを見やすくして	1	BGMがほしい	1
クジラの骨を展示して	1	調べ物用にパソコンを設置して	1
自販機を設置して	1	一つの水槽に一種の生物にして	1
水槽を大きくして	1		